

令和元年度 第5回 庄内支部勉強会 活動報告
「一症例検討会」 両側小脳梗塞を呈した症例（急性期～回復期～在宅）

日時：令和元年 10月23日（水）19：00～21：00

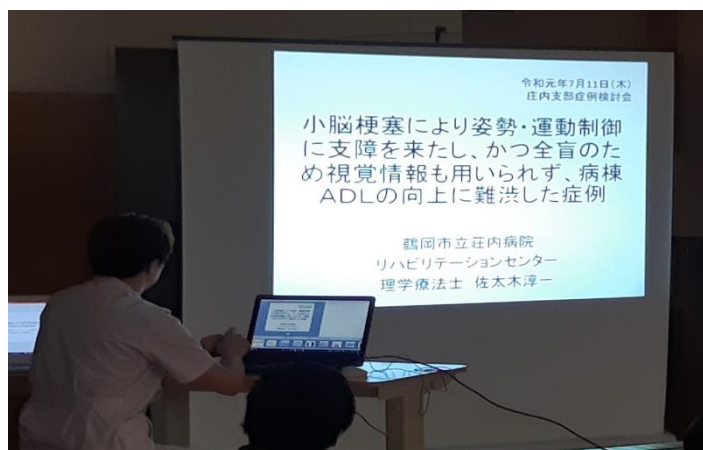
会場：鶴岡協立リハビリテーション病院

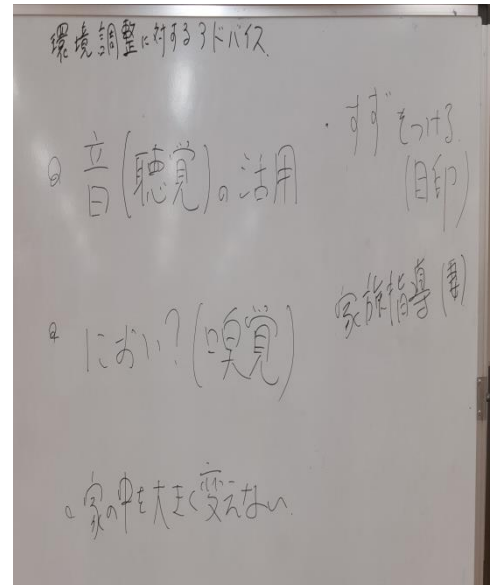
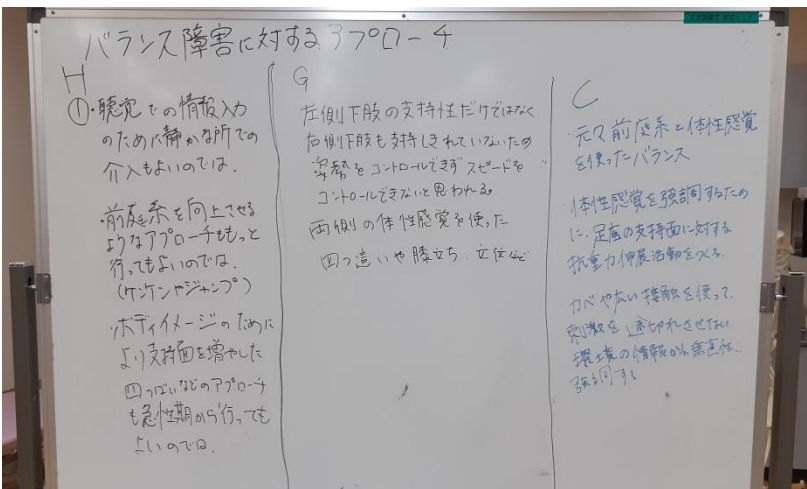
令和元年度庄内支部第2回、第5回で開催した一症例検討会ではそれぞれ45名、20名の会員の方々に参加して頂きました。各病期での身体状態や動作等の評価をもとに、様々な理学療法アプローチなどを佐太木淳さん、佐藤吉隆さん、高橋大介さん、富樫千恵さんの4名より発表して頂きました。グループディスカッションでは、様々な意見を出し合うだけでなく、全体での発表の際に具体的な治療方法などの提案・発表もあり発表者の先生方に限らず参加者の皆さんの今後の治療・評価の参考になったのではないかと思います。

今回の症例は全盲であり、各先生方は共通して自宅に戻ってからの生活を視野に入れた治療に取り組みつつ、自宅から鍼灸院までの移動、庭の剪定、草むしり、囲いの作業などが行えるよう、動作の獲得や環境整備（ガイドロープなどの設置など）の提案などを行っていました。病棟と在宅との連携やカンファレンスで抽出された課題、関連シートなどの活用もあったようです。知覚的フィードバックが困難であるものの自宅という慣れた環境下であり、体性感覚や記憶をもとに現在は歩行や作業を行っていますが70代という年齢を考えると今後認知面の低下や身体機能の低下も考慮しつつ環境整備や段差解消など必要であれば早めに対策を講じることで、今後も末永く在宅で安全に生活することが出来るのではないかと思います。

現状の評価だけでなく、訪問リハビリを終了した後の生活のことも考えられる広い視野を持てるよう、今後も勉強会を通して様々な意見交換やお互いの学びになる機会を作っていきたいと思います。今回、症例を報告していただいた先生方、参加された先生方に感謝申し上げます。ありがとうございました。

（文責：中村千佳）





病棟との連携

回復期-生活期連携カンファレンス

病棟名	担当	連携内容
101	山田 太郎	101病棟からの患者の受け入れ
102	佐藤 花子	102病棟からの患者の受け入れ
103	鈴木 一郎	103病棟からの患者の受け入れ
104	田中 美咲	104病棟からの患者の受け入れ
105	高橋 健太	105病棟からの患者の受け入れ
106	伊藤 由香	106病棟からの患者の受け入れ
107	渡辺 拓也	107病棟からの患者の受け入れ
108	山本 真由	108病棟からの患者の受け入れ
109	水野 悠介	109病棟からの患者の受け入れ
110	木村 千尋	110病棟からの患者の受け入れ
111	石川 大輔	111病棟からの患者の受け入れ
112	松本 結衣	112病棟からの患者の受け入れ
113	斎藤 隆志	113病棟からの患者の受け入れ
114	高木 舞	114病棟からの患者の受け入れ
115	橋本 健一	115病棟からの患者の受け入れ
116	中村 莉子	116病棟からの患者の受け入れ
117	森田 浩二	117病棟からの患者の受け入れ
118	山口 美穂	118病棟からの患者の受け入れ
119	北川 拓哉	119病棟からの患者の受け入れ
120	田村 真由美	120病棟からの患者の受け入れ

- ## アプローチ
- 歩行**
 - 独歩、1字杖：監視、声掛け誘導
 - 広い歩き：支持点を参考にしながらの物品の運搬
 - 応用動作：多方向への移動、置き動作、段差昇降を含めた歩行など
 - 前庭系の強化、バランストレーニング**
 - ジャンプ、平行棒歩き、ランジ、四股、階段昇降
 - 持久カトレーニング**
 - ニューステップ、エルゴメーター

